

『児のそら寝』⑤ 〈古語の特徴を捉える。〉

● 古語と現代語を比べて、ことばの使い方が文法的に違うところを見つけよう。

<p>1</p> <p>僧たち、宵のつれづれに、 僧たちが、宵の退屈しのぎに、 この児、心よせに聞きけり。 この児は 期待して聞いた。</p>	<p>「いざ、かいもちひせむ。」 「さあ、ぼたもちを作ろう。」 と言ひけるを、 と言ったのを、</p>
---	---

〈古語〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・僧たち (が)</li> <li>・かいもちひ (を)</li> <li>・ぼたもち (を)</li> <li>・言ひける (の) を</li> <li>・この児 (は)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>   「が」の省略</li> <li>   「を」の省略</li> <li>   「を」の省略</li> <li>   「の」の省略</li> <li>   「は」の省略</li> </ul>
--	---

<p>2</p> <p>さりとして、 そうかといって、</p>	<p>し出ださむを 待ちて寝ざらむも</p> <p>僧たちがぼたもちを作り上げるのを待つて寝ないようなことも</p>
-------------------------------------	--

〈古語〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (僧たちが)</li> <li>・ (ぼたもちを)</li> <li>・ し出ださむ (の) を</li> <li>・ 待ちて</li> <li>・ 寝ざらむ (こと)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>   (主語の省略)</li> <li>   (目的語の省略)</li> <li>   「の」の省略</li> <li>   (活用の違い)</li> <li>   「こと」の省略</li> </ul>
--	--

「や、 な起こしたてまつりそ。をさなき人は、寝入りたまひにけり。」  
 「これ、お起こし申し上げるな。おさない人は 寝入ってしまわれた。」  
 と言ふ声のしければ、あな、わびしと思ひて  
 と言う声がしたので、ああ、困ったと思つて

〈古語〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なーそ</li> <li>・ をさなき人</li> <li>・ 声の(声が)</li> <li>・ しければ(したので)</li> <li>・ 思ひて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>   (現代語にはない禁止の言い方)</li> <li>   (活用の違い)</li> <li>   (「の」の用法の違い)</li> <li>   (「ば」の用法の違い)</li> <li>   (活用の違い)</li> </ul>
---	--

※まとめ

古語の特徴

- 1 「が」「を」「は」「の」の省略(=助詞の省略)
- 2 (主語の省略)
- 3 (目的語の省略)
- 4 (活用形が現代語と違うものがある。)
- 5 (助詞の用法が現代語と違うものがある。)

● 品詞

1 「いざ」「や」「あな」「えい」

=

（感動）（詞）

|| 感動や応答、呼びかけを表す語

古語・・・ ああ、あはれ、あつぱれ、いや

現代語・・・（ああ）（ほら）（はい）

2 「さりとして」

=

（接続）（詞）

|| 文と文、語と語などをつなぐ語

\* 「しければ」「ば」「は」は？

古語・・・ かくて、されど、ゆゑに、また、なほ

現代語・・・（そして）（でも）（また）

※ 古語の品詞・・・現代語と同じ 十種類

（教科書二三六～二三七ページ、便覧四七八～四八八ページ参照）

● 活用

〈古語〉

〈現代語〉

聞く	聞き(けり)	聞い(た)
言ふ	言ひ(ける)	言っ(た)
待つ	待ち(て)	待っ(て)
思ふ	思ひ(て)	思っ(て)
をさなし／おさない	をさなき(人)	おさない(人)